

「日本のアマゾンに行く！」

総務部 主事 伊藤 尚美
企画調査部 主事 平野 由美

うだるような暑さからやっと開放されたと思ったものの、朝晩の冷え込みにちょっと夏が恋しく感じられる10月下旬、私達は秋を楽しむことを先送りし、夏に再会するために沖縄県の西表島に行った。季節はずれの台風11号がうろうろしていたのであまり天候には恵まれなかったが、晴れ女2人組に恐れをなしてかどうやら日本上陸を諦めてくれたのがせめてもの救いだった。

西表島は沖縄本島に次ぐ大きさを誇り、大小合わせて40本の川がある。今回はそのうちの浦内川と仲間川を紹介する。

2級河川浦内川は全長39km、主流長18km、県内一の長さを誇る。ノコギリダタミ、シジミ、テッポウオウオ等が棲息している。野鳥では石垣島と西表島にしかない特別天然記念物のカムリワシを初めヤマショウビン、アマサギ等が棲息している。

植物ではパイナップルの形に似たアダンやオオハマボ等がある。余談であるが沖縄でも紅葉が見られ、3、4種類のハゼの木が色づくそうである。ちなみに新緑は1月、2～3月にかけては花が多いそうだ。



西表島といえば特別天然記念物のイリオモテヤマネコが有名である。イリオモテヤマネコが過去にこの川を泳いで横断したらしいが、見ることは出来なかった。それにしてもネコが泳ぐなんて、摩訶不思議である。



また、忘れてはならないのがマングローブ。熱帯の海岸沿いの海水と淡水が混じりあう場所に生育する植物の総称を言う。マングローブは、オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ、マヤブシキなどの種類がある。ここでは、オヒルギ、メヒルギ、ヤエヤマヒルギをみる事が出来た。それぞれの特徴は、オヒルギは赤い花をつけ根は膝を折ったような形の膝根、メヒルギはオヒルギより少し小さめで白っぽい花をつけ根は盤根状、ヤエヤマヒルギは呼吸根で根が長い蛸足の支柱根である。

浦内川には美しい2つの滝、マリユドゥの滝とカンピレーの滝がある。マリユドゥとは「丸く淀んだ」、カンピレーとは「神様が座る所」という意味だ。マリユドゥの滝は日本の滝100選にも選ばれている。落差は20m程で、二段に分かれた滝は、密林の間をもの凄いい音をたて勢いよく丸い滝壺へ流れ落ちている。その景観は、とても勇壮的に感じた。ここから10分程歩くとカンピレーの滝へ着く。落差はそれ程ないが、川床は平たく、白布を流し敷いたような感じは、いかにも神様が座る所というような神秘的な雰囲気醸し出していた。



こんな2つの美しい雄大な滝を見て、改めて自然のすばらしさに感動、圧倒されながら、この地を後にした。

2級河川仲間川は全長17.5km、浦内川に次ぐ長さである。水深は2mだが満潮時には3～4mになり、川の両側にあるヒルギの大群落のマングローブ



ブ林の葉まで水に浸かる。マングローブ林の広さは300haで日本最大の規模である。鮫などが間違っに入って来るといっても頷ける。またマングローブやヤシの根元にはヤシガニが棲息している。大きいものでは4～5kgもあり、私達には想像もできない大きさであった。

上流には日本最大のサキシマスオウの木がある。樹齡



約400年で二本の木が一体となっており、また板根と呼ばれる大きく切り立った根を持つ。昔は洗濯板や畑を耕す鋤等に使われていた。

今回台風の影響で水量も多かったこともあるが、「日本のアマゾン」と言われる位ダイナミックな2河川に、何か魔力にでもかけられたかのように私達は魅せられた。また都会で生活する私達にとって、この島は大自然の宝庫であった。